

灯



先進国とのせめぎ合いの時代に
突入したように見える。

では、世界で最も格差の少ない国といわれていた日本はどうあるべきなのか。多くの専門家が言うように格差是認で世界に立ち向かうのか、構造改革を先送りしても格差解消に取り組むのか、大きな岐路にさしかかっていると思う。今

ほど政治家の見識が

問われる時代はない

かもしれない。

わが国は世界でも

希な均質な社会を築

き上げてきた実績が

ある。世界の流れに押し流され

て格差を放置すれば、いずれ大

きな反動が来る恐れは強い。や

はり格差の少ない足腰のしっか

りした国が日本のとるべき道で

はないだろうか。格差を放置し

てきた国々は、日本を見習う時

代がきくと来ると思う。(昭和

学園高校理事長・日田市)

近年、日本人の海外での買い物は随分とつましくなってきたと聞くが、いわゆるBRI Csに代表される新興の国々は、国内格差はものともせず、郵小平ばりに「豊かになれるものから先になればよい」という

ことで一見、元

気がよい。

その中で、資

源外交で勢いの

あるロシアやオ

リンピックを目前に控える中国

あたりでは格差に対する不満が

国内に充満しているとのことだ

が、経済発展の勢いを維持する

ために力で押さえ込んでいる、

といった印象は否めない。今日

の世界は国内の格差拡大はもの

ともせず経済発展至上主義での

し上がっていく国々と、既存の



草野 義輔